

子供たちの小さな変化への気付きからはじまる未然防止

友達関係、仕草や表情、服装や持ち物等、日常生活の中で子供たちの姿の小さな変化に気付くことが、いじめや問題行動、不登校等の未然防止の第一歩です。

特に連休明けは、年度初めに緊張感をもって登校していた子供たちが息切れをする時期でもあります。子供たちの様子を、全教職員でこれまで以上に丁寧に見ていきましょう。

子供たちの姿や人間関係の小さな変化を見逃さないようにしましょう。

視点(例)

【朝の登校時】

- 名前を呼ばれても返事をしない。
- 教師と目を合わせなかったり、うつむいたりしている。
- 普段より口数が少なく元気がない。
- 普段よりよくしゃべる。落ち着かない。



【授業中】

- よく外を見て、ぼんやりしている。
- トイレや保健室に行く回数が増える。
- ノートの字が乱雑になった。
- 寝ていることがよくある。
- ネガティブな発言が増える。
- 学習の準備がそろわない。



【給食・休憩中】

- 給食を残したり、食欲がなくなったりしている。
- 何回もおかわりをする。
- 友達と遊ばず、一人で過ごすことが多くなった。
- 遊び仲間の構成が頻繁に変わる。
- 内緒話をする場面をよく見かける。



【放課後】

- なかなか帰ろうとしない。
- 友達と帰らず一人で帰るようになった。
- 挨拶をしても返ってこない。
- 習い事や部活動に行かないことが増える。



「あれ?」と思った時には...



ポイント①

「いつもの様子と違うな」と感じたら、朝の早い段階で声かけをしましょう。子供たちの気持ちや伝えたいことに寄り添いながら、話を聞くことが大切です。

ポイント②

日記や作文からも、子供たちの情報を得ることができます。特に気になる子供については、他の先生方からも情報を集め、より客観的に実態を把握するようにしましょう。

ポイント③

生活の乱れを感じたら、家庭の様子にも目を向けてみましょう。その際、学年主任、学年団、養護教諭等、複数の目で情報共有しアセスメントを行きましょう。  
(※場合によっては関係機関と早めに連携することも大切です。)

今年度の連休明けは、新型コロナウイルス感染症への対応が変わります。その中で不安を抱え、自分の思いをうまく表現できずに悩んでいる子供がいることも考えられます。例年以上に、子供たちの小さな変化を見逃さないようにしましょう。また、それぞれが気付いたことを全教職員で情報共有し、共通理解の上で対応していくことが大切です。

